



## 特集

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

知ることから!



SDGs～「なんて読むの?」という方から、よく知っていますという方までさまざまだと思いますが、2020年からは公教育でも子ども達も学ぶようになり、誰もが地球の未来に責任を持ち、しっかり意識することが大事な時代になっていることは間違いないようです。

SDGs (エスディージーズ) は、「誰ひとり取り残さない」という理念のもとに、2015年に国連で採択された「Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標」の略で、17の項目を挙げて2030年までに達成することを目指しています。日本政府はSDGs未来都市を募集し、現在全国で60の自治体(道県市町村)が選定されています。SDGs以前の国連の取り組みでは政府や地方自治体の努力を念頭に置いていましたが、SDGsでは企業やNPO/NGOなど民間セクターも含め、すべての人たちが課題解決に主体的に取り組むことを求めています。

品川区内のNPO・地域団体や区がそれぞれの役割の中で、協働して何かを成そうとする時に、17の項目を思い浮かべ幾つかの項目を特に意識して事業を行っていくことができたらと思います。区民一人一人が毎日の暮らしの中で、どんなに小さなことでも今日からできるアクションを起こしてみることが大切なのではないでしょうか。

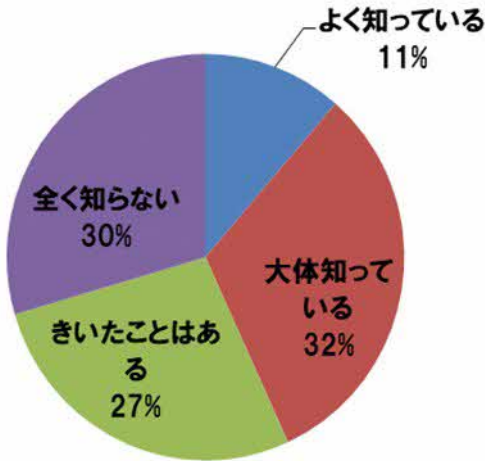
SDGsの詳細は、国連広報センターや外務省のサイトなどを参照してください。

2頁ではNPOや地域団体へのSDGsアンケート結果を、3頁では女性起業家の活動でもある(株)スルシィと、いち早くSDGsにコミットしてるサラヤ(株)とを紹介します。

# NPO・市民団体の方へアンケートを行いました。

SDGsに関する新聞記事や情報を、目にするようになってきましたが、区内で活動している団体の方々には、どのくらい知られているのか、17のゴールのどこを意識して活動をしているのかについて、調査することにしました。協働ネットワークの会員や関連する方々44人に伺いました。

## Q1 SDGsを知っていますか？



よく知っている人は1割に過ぎませんでしたが、全く知らない人は3割で、だいぶ認知度が上がってきているようです。協働ネットワークしながわには、様々な分野の団体が所属していますが、共通するのは「まちづくり」という観点なのだとわかりました。また、都市化の進んだまちの大きな課題は健康と福祉で、小さな団体もこの課題に取り組みやすいのではないのでしょうか。

## Q2 SDGsの17のゴールのうち、あなたの団体で日ごろから意識しているものは？(複数回答可。特に意識しているものは2ポイントでカウントしました)

ゴール番号	意識しているもの	ポイント
1	貧困をなくそう	15
2	飢餓をゼロに	10
3	全ての人に健康と福祉を	35
4	質の高い教育をみんなに	30
5	ジェンダーの平等を実現しよう	15
6	安全な水とトイレを世界中に	10
7	エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	10
8	働きがいも経済成長も	10
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	10
10	人や国の不平等をなくそう	10
11	住み続けられるまちづくりを	30
12	つくる責任つかう責任	10
13	気候変動に具体的な対策を	10
14	海の豊かさを守ろう	10
15	陸の豊かさを守ろう	10
16	平和と公正をすべての人に	10
17	パートナーシップで目標を達成しよう	10

## Q3 目標を意識して行っている具体的な事業内容や工夫を教えてください。

(主なもの) 子どもの現状発信 / 子どもの声を電話で聴く / ひとり親家庭の参加費割引/遊び場づくりを通したまちづくり / 遊びを通して外国語や文化に親しむ/外国人への日本語教育 / プログラミング体験/こどもエコクラブ / 防災・健康の企画/子ども若者の意見を取り入れながら場づくり / 障害のあるなしに関わらず支援が受けられる / 子育て情報提供 / 子育てママの不安を取り除く / プロの生演奏を親子に / 海外の難民支援/難聴者への支援事業 / 加齢に負けず元気に暮らせる生活の呼びかけ / キャンドルナイト / 地域活性化イベント参加、協働事業

## Q4 SDGsについてどんなことでも自由にお書きください。

(主なもの) 未来に対する希望を失わないように大切な目標/地道な活動が重要/地球、生きるもの全てを大切にする意識から / 各個人の意識を高める / SDGsについて話し合う/区は区民への啓発を先導して欲しい / まずは知ることから / 行動変容に繋げる/ピンとこない / 絵空事っぽい / アイコンがわかりにくい / 日本人向けにわかりやすい単語にして欲しい



## 企業のチャレンジ 紹介

### 「スルシィ」(大崎)

ラフィア(ヤシ系の葉)で編んだ素敵なバッグが並ぶオフィスで、社長の関谷里美さんから話を伺いました。

25年間経営していた輸入雑貨店をやめる決心をし、セブ島へ旅した関谷さんは、現地で女性の貧しい暮らしぶりに触れたり、安価な土産物を手にして、現在の事業を始めようと思いました。困難な道のりがありながら粘り強く事業化を進め、フィリピンの女性がラフィアによる編み物の技術を身につけ、手作りのラフィア製バッグを商品としてフェアトレードで輸出できるようになり、今では軌道に乗っているそうです。

**1 貧困をなくそう** 女性、子どもを育てている母親達の仕事を作ること。家の設備や目に見える生活の変化が起きているそうです。

**5 ジェンダー平等を実現しよう** 立場の弱い女性の地位を向上させ平等な立場になれるように、働ける技術を教え、働く場を作っています。

**12 つくる責任つかう責任** 不用になったバッグを回収して土に返したり、取っ手の交換などの修理を日本や現地でおこなっています。

今後は**15 陸の豊かさを守ろう**にも取り組むとのこと。セブ島でもラフィアが採れるように植樹を進める事業を計画中です。

さらに、新しくなる会社敷地内に、託児所、図書室を作りたいと、

**4 質の高い教育をみんなに** **3 すべての人に健康と福祉を**にも取り組む夢を語ってくれました。区内の小さな会社の大きな挑戦です。



### 「サラヤ」(東品川)

サラヤ株式会社の東京本社にて、CSR推進課の小野文義さんから話を伺いました。

サラヤは、戦後まもなく手洗い薬用せっけん液の開発・供給と並行して、日本全国での手指衛生の普及に取り組んでいます。これはSDGsが提唱されるはるか前から、ゴールの**3 すべての人に健康と福祉を**に先駆的に取り組んでいたと言えます。そして現在ではゴール1,2,11を除く14のゴールを関連させあいながら、積極的に取り組んでいます。例えば世界中で使われているヤシの実洗剤の材料に使われているパーム油を採る油やし農園の80%以上がマレーシアとインドネシアで開拓されており、オランウータンなど固有の野生動物は絶滅の危機に瀕しています。そこでサラヤはジャングルを戻す取り組みとして、売り上げの1%を環境保全に役立つよう寄付をしているそうです。また、児童労働をさせている農家など、法を逸脱している農園の油を材料として使わない姿勢を明確にしています。さらに、ユニセフと協力して東アフリカのウガンダで軽い感染症でなくなる子どもたちの命を守るため「100万人

の手洗いプロジェクト」を開始。手洗い習慣の定着と簡易手洗い設備の普及に努めています。また医療では院内感染をなくすために現地に工場を作り雇用生産したアルコール製剤の普及に努めています。



JAPAN since 1952



UGANDA since 2010



# 報告

## SDGsってな～に? ～世界の共通目標を学ぼう～

11月27日(水)、講師に星野智子氏(一般社団法人 環境パートナーシップ会議 副代表理事)を招いて開催しました。SDGsは17のテーマで構成されており、誰ひとり取り残さないという理念のもとに、各テーマの課題をパートナーシップで解決するためのツールであることを学びました。そして、ワークショップを経て、SDGsの目標は自分たちの活動の先にあり、それを実現するのは、他のだれかではなくて、自分自身でもあることを実感しました。



### 地域活動NPO活動団体基礎講座の第2弾

#### ～夢をかなえる団体になるためにⅡ～ 伝えたい人の心に届く広報とは?

9月11日、25日と2回にわたって開催しました。講師には谷浩明氏(合同会社MACARON)を招き、2回では学びきれないほど大切なことを学ぶことができました。

初回は、そもそも広報とは何なのかをまずは考えさせられました。私たちはついつい伝えたいことを一方的に伝えようとしてしまい、受け取る側が何を知りたいのかを軽視してしまうことがよくあります。広報とは、一方通行のものではなくコミュニケーション、という講師の言葉に参加者みんながハッとしました。



#### 2日目はチラシクリニック

実際に受講しているみなさんが作ったチラシデータを事前に講師に見ていただき、アドバイスしていただきました。

チラシの見た目の出来栄や、作成技術だけにとらわれることなく、初回に教えていただいた大切なポイントから見て、そのチラシが作られているかどうかを、一つずつ丁寧にアドバイスしていただき、今後の広報活動に大いに役立つ講座となりました。

### 次回講座 予告

#### 地域活動NPO活動団体基礎講座第3弾

#### ～夢をかなえる団体になるためにⅡ～ 団体の資金調達の基礎を学びます。

- \* 日時 2月5日(水) 午前9時30分～午前11時45分
- \* 会場 中小企業センター 中講習室
- \* 講師 久保匠さん  
(日本ファンドレイジング協会プログラム・オフィサー)
- \* 対象 地域活動・NPO活動に携わっている人、関心のある人 30人
- \* 申込 住所、氏名(ふりがな)、電話番号、所属団体がある方は団体名を地域活動課へ

### 協働ネットワークしながわ について

協働ネットワークしながわは、どなたでも入れる会員制。施設見学会、学習会、情報交換会などを行っています。社会貢献活動をなさっている方、協働に関心のある方はお気軽にお問い合わせください。協働ニュース品間についての問い合わせも下記まで。

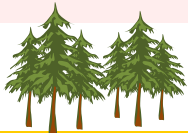
#### 事務局連絡先: 地域活動課 協働推進係

〒140-8715 品川区広町2-1-36

☎ : 03-5742-6605

Fax : 03-5742-6878

E-mail : [chikikat-kyodo@city.shinagawa.tokyo.jp](mailto:chikikat-kyodo@city.shinagawa.tokyo.jp)



<品間No.27 編集 幾島博子>

